

## Kビジョン放送番組審議会（2015 年 10 月 9 日）

放送番組審議会（第 18 期第 1 回会合）では、『戦争の記憶、永遠へ～海軍特務艦 聖川丸（きよかわまる）』、『タウンニュース～虹ヶ浜海水浴場から生中継』を合評しました。

### <合評番組>

#### ■戦争の記憶、永遠へ～海軍特務艦 聖川丸（14 分）

2015 年 7 月 20 日～7 月 26 日放送

山口県内のケーブルテレビ局・8 局の共同制作として、各局エリア内で太平洋戦争や戦後 70 年に関する題材を取り上げ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴えました。Kビジョンでは、終戦直前の昭和 20 年 7 月に上関町沖でアメリカ軍の爆撃を受けて沈没した海軍特務艦「聖川丸」を取り上げ、地元で現在も慰霊法要を続けている上関町の人たちや、元乗組員を取材しました。法要は毎年 7 月 25 日に行われるため、委員の方々には別途、法要の様子を取材した「タウンニュース」（7 月 27 日放送）も視聴していただきました

#### ■タウンニュース～光市・虹ヶ浜海水浴場から生中継（14 分）

2015 年 7 月 24 日放送

「タウンニュース」は、地域の出来事や話題を取材し、月曜日から金曜日の日替わりで放送しています。「タウンニュース」では今年度、月に 1 度の生放送に取り組んでいます。毎回、放送制作部員が交替でディレクターを担当していて、番組の進行、放送技術など各分野におけるスタッフの技能向上をめざしています。今回ご覧いただくのは、7 月に実施した光市の虹ヶ浜海水浴場からの生中継で、番組全編を現地からの生中継とし、前半はニュース、後半は海の家からのレポートや翌日に開催される「光花火大会」の紹介などを行いました

<合評内容>

■戦争の記憶、永遠へ～海軍特務艦 聖川丸

- ・脚色を加えることなく事実を淡々と紹介したつくりで、見やすい番組だと感じた。放送後に元乗組員が亡くなったとのことだが、貴重な取材になったと思うし、父親の思いを伝えようとする娘の熱意を戦争体験の代弁者としての切り口で捉え、真摯に編集されていると感じた
- ・番組に登場する人物は上関町が中心で、地元にとっては戦争について考える資料になったと思うが、上関町以外の視聴者にとっては入りにくい内容だったと思う。戦争に関する題材は身近な話が最も説得力があり、それが自分たちの近隣に関する話題であれば、見ている側もテーマとして受け入れやすい
- ・子どもと一緒に見るのによい番組だと思った。身近な地域の歴史を取り上げ、戦争について考えることは大切なことだと思う。戦争の悲劇など身近な地元の歴史といった小さな記録を残していくことは、地元のテレビ局として取り組む意義が大きいと感じた
- ・戦争への関心の薄い若者には少し受け入れにくい部分もあったのではないかな。もう少し若者が入りやすい番組導入を工夫するとよかった
- ・聖川丸について調べてみると、意外と有名な船だということを知った。数奇な運命をたどったという側面から取り上げて、番組を構成してもよかったと思う
- ・特務艦爆撃の供養法要は地元以外にはほとんど知られていないといった事実を踏まえ、取材背景や過程はNHKや民放などのテレビ局にはない流れだと思う。番組の内容に加えてみれば、戦争や歴史に関心の薄い人も番組に共感できる面もあったのではないかな
- ・地元の住民でも身近な歴史について知らないことが意外と多いので、地域の歴史について取材し、映像に残していくことはケーブルテレビにしかできないことだと思う
- ・地図表記などがなく、舞台となった志田地区の位置関係が番組からはわかりにくいと感じた

等のご意見をいただきました。

■タウンニュース～光市・虹ヶ浜海水浴場から生中継（14分）

- ・番組全体は楽しい雰囲気が伝わってきたが、海の家に人が映っていないのが気になった
- ・番組構成のバランスが悪い印象を受けた。中継は後半のリポート部分に集中させてもよかったのではないかと感じた。生中継の番組としてきれいにまとまりすぎているとも感じる、もう少しドタバタした感じが表れてもよかったのではないか
- ・「タウンニュース」は基本的に報道番組なので、あまりバラエティー的な要素を番組に加えない方がよいと思うし、生中継の面白さは何かを考える必要があるのではないか
- ・周南市八代の瀬田農園からの生中継（9月18日放送）の方が見応えがあったし、放送を見た八代地区以外の人からの反響も大きかった。生中継のメリットには、プレゼンテーションの効果もあるのではないかと思う
- ・キャスターの立ち位置は、海が見えるアングルが少なかったように感じた等のご意見をいただきました。

■その他～Kビジョンへの注文

- ・地域を巻き込んで、24時間の生放送やリレー中継に取り組んでみてはどうか。番組中にスポーツ少年団の応援などの要素などを加えていけば、視聴者の興味をひくことができるのではないか
- ・丹念な取材の積み重ねの中から、身近な歴史を発掘したりするのはケーブルテレビならではのと思う。今後もフットワークの軽さを活かして、身近なことを伝えるリアルなニュースという姿勢を見失わずに番組制作に取り組んでほしい
- ・行事に出席していると、主催者や出席者の方々から、「きょうはKビジョンが取材に来ているね」や「きょうはKビジョンが取材に来ていないのか」といった声を聞くことがある。市民は、スタッフが感じている以上にKビジョンに対して注目している。常に周りの人から見られているという意識を持って、取材に臨んでほしい
- ・周南市八代地区では今後、鹿児島県出水市からのナベヅル移送事業の再開に向けて気運を盛り上げたいと考えている。今後、地元とKビジョンが一緒になって地域を盛り上げたり、問題提起を通して、協力してもらうことはできないか等のご意見をいただきました。

出席者は、末岡泰義委員長、なかはらかぜ、原田幸雄、増野睦子、小田佳希の各委員、社側から長尾一郎代表取締役社長、杉田昌士専務取締役、他放送制作部員5名でした。